（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和 8 年 3月 31 日

県立七里ガ浜高等学校長

令和７年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和６年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 23 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの確かな学力の向上を図り、進路実現に向けた支援を推進する。 ②国際理解教育等を通して、生徒一人ひとりの自立に向けて、視野を広げ豊かな人間性と社会性を育成する。	①生徒の学力向上に資するために学習環境の整備を行うとともに、研修や授業互見等を通じて組織的授業改善に取り組む。 ②姉妹校等交流や留学生との交流活動をとおして、生徒一人ひとりが主体的に取り組める機会を増やし、その機会の推進を図る。	①(1)電子黒板や一人一台端末等 ICT 機器の利活用の促進を行うなど、多様な学習機会を提供し、生徒が自ら学習する意欲の向上を図る。 (2)研修や授業互見等の際は「教え方」や「教材選び」「生徒目線」等の視点も持って授業研究を行う。 ②姉妹校交流や海外修学旅行・留学生受入等において、生徒の主体的な活動を引き出し、相手校の生徒と共に意義深い経験となるよう取組を継続する。	①(1) ICT 機器の利活用が進んだか。 ・生徒の学習意欲の向上について、授業評価のうちの自己評価の項目において 2/3 程度以上の生徒がプラスに評価したか。 (2) 具体的な方策の視点に立った組織的授業改善に取り組むことができたか。 ②生徒が主体的に取り組める場面や活動満足度が上がったか。	①一人一台のデジタル端末の導入、および電子黒板の配備に伴い、「ロイロノート」、「スタディサプリ」等の授業・HR 支援アプリを導入している。一人一台端末と「ロイロ」については導入３年目となり、全学年で運用できるようになり、多くの教員が種々の ICT 機器やアプリを組み合わせて有効に活用できるようになった。その結果､教員の ICT 関連のスキルアップと授業力の向上、さらには生徒の授業への積極的な参加につながった。 ②本年度、オーストラリア、グアム、姉妹校である韓国の学校を訪問し、生徒同士の国際交流を通して相互理解を深めた。事前・事後学習を実施し、異文化理解を体系的に深め、各自が目標をもって取り組む学習機会とした。また、韓国、オーストラリアからの訪問団を受入れ、国際交流活動を行った。さらに、年間を通じて体験を含む留学生の受入を実施し、生徒の国際的視野と多文化理解の向上につなげた。	①次年度以降も、より多くの職員への研修を実施して、さらなる ICT 関連スキルの向上を目指すとともに、個々の教員の授業力向上に努める。また､一人一台端末のさらなる活用を進めるため、生徒支援Ｇと連携し､生徒の情報リテラシーの向上を図る。 ②次年度以降も引き続き生徒が主体的に取り組むことができるよう、環境を整え国際理解教育の推進に努める。	①大学でもデジタル端末の活用はすすんでいて、講義用テキストも全てがデジタルになっている。講義している側からすると端末で講義とは無関係のゲームなどをしていても把握が難しい。高校での対応を教えていただいたので参考にしたい。 中学校ではＡＩを、個人情報保護等の観点から生徒には使わせず教員が教材作成等に使っている。高校では１年時に情報Ｉで扱い、大学では制限していないとのことなので、今後の検討の参考にしたい。	①ＡＩの活用について、個々の対応となっているが、今後は組織としての対応に向け研究をすすめる。 「教員がどう教えるか、どのような教材を選ぶか」という視点を持った授業改善の取り組みを行った。 ②台湾修学旅行や姉妹校交流等の活動において、生徒の主体的な活動を引き出し、相手校の生徒と共に意義深い経験となった。	①ICT 活用を継続するとともに、ＡＩの活用に関連した研修や授業互見等によって組織的授業改善に引き続き取り組む。 ②引き続き生徒が主体的に取り組むことができる環境を整え、国際理解教育の推進を図る。
2	生徒指導 ・支援	①生徒のさまざまな活動の主体性を尊重し、生徒に向き合って、リーダーシップを育成する。 ②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を充実させる。	①生徒組織それぞれの自主的・主体的な運営を促すとともに責任を持たせ、有意義な活動と達成感の向上を目指して、適切な指導と助言を行う。 ②生徒のメンタル面での変化を早期にとらえ、外部人材とも連携を図りながら、適切かつ丁寧な対応を行う。	①生徒会本部及び各種委員会等がそれぞれ課題を認識し目標を立て、協力しながら達成に向けた活動が行われるよう支援する。また、部活動が達成感と育ちあいの生まれる場となり、それが安全な環境で行われるために、支援と環境整備を行う。 ②日ごろの職員間の情報共有及びサポートドック、学校生活アンケートの結果等を活用し、自らSOS を発せない生徒の早期発見を目指す。学年会や教育相談 CO 会議等における生徒情報の共有を充実させ、チームによる支援を行う。	①各種活動や行事において、生徒による自主的・主体的な検討及び総括ができたか。また、生徒アンケートで活動満足度が十分に見えたか。 ②サポートドックおよび学校生活アンケートの結果等を適切に活用することができたか。学年会および教育相談 Co 会議等での生徒情報の共有を充実させ、適切な支援につなげることができたか。	①生徒アンケートの結果、行事への満足（充実）度（「よい」「とてもよい」の合計）が体育祭 97.6%、文化祭 99.2%と極めて高い数値を示した。今年度は両行事とも主担当の職員が交代したが、早期から実行委員会や生徒会本部との協議の場を十分に確保し、教員と生徒が密に連携して準備を進めたことが、生徒の主体性を引き出し、高い充実感へと繋がった。 ②校内におけるサポートドック実施要項を整理し、日程及び役割分担、スクリーニング会議における判断基準等を明確に示すことができた。サポートドック２回目のアンケートでは、各学年で「先生または家族に悩みを話せる」項目でのネガティブ回答が減少し、アラート数が１回目 176 件（16.9%）から２回目 143 件（15.8%）に減少した。また、グループ会議において、各学年の生徒情報を集約し、適切な支援につなげることができた。	①学校行事が生徒に大きな達成感を与える一方で、準備期間や活動量における負担感の増大が課題となっている。特に、活動の核である「色別演技」については、伝統の継承を重視しつつも、持続可能性確保の観点から、行事規模の適正化に向けた検討が必要である。今後は、内容の精選や実施形態の工夫について、生徒の声を反映させながら再構築を図る。 ②サポートドックの結果として、全体的にネガティブ回答が減少したが、２年生、３年生の回答率が下がったことにも注視したい。全学年でアンケート回答率 100%を目指し、生徒の傾向を適切に把握できるように努め、プッシュ面談等を通じて生徒の孤立防止を図る。また、引き続き生徒情報の集約を充実させ、各生徒の傾向・特徴を把握することで、指導案件の未然防止にもつなげたい。	②大学では、以前は手厚い学生支援はしてこなかったが、近年は学生の状況が変容しており、個々への支援や対応の充実を図っている。高校の取り組みはとても参考になった。 今の中学１～３年生は、コロナ禍に幼少時代を過ごしていたためか、他者とのコミュニケーションにおいて困難を抱える生徒が多数在籍している。今後は、その生徒たちが高校に入学する。高校でも、そのような現状を踏まえた対応をお願いしたい。	①体育祭、文化祭、合唱祭を軸にした本校の行事については、行事規模の適正化及び持続可能な行事のあり方と伝統の継承とのバランスを考慮して引き続き見直しをすすめていきたい。 ②サポートドック及びＳＣやＳＳＷとの面談、教育相談Ｃｏ会議、ケース会議等による支援体制を引き続き充実させたい。	①学校行事については他校の状況についての情報収集を継続するとともに、事後アンケートも参考にしながら検討を継続する。 ②教育相談体制は充実しているが、引き続き見直しを行う。

	視点	４年間の目標 （令和６年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 23 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	キャリア教育を充実させ、目的意識を持って学習に取り組む姿勢を育む。	生徒自身が希望する進路について考え判断する力を育めるよう、家庭とも連携しながら３年間を通して必要かつ適切な支援を行う。	3 カ年を通じてキャリアガイドブックの活用、外部テストの受験、現行の教育課程入試への対応、年内入試への対策等を充実させ、系統的な進路指導を行う。	・引き続きキャリア教育プログラム充実を図るとともに、説明会やガイダンス、体験の機会、各種試験を有機的に結び付けて実践することができたか。	・今年度も、年間計画に基づき、各学年それぞれの時期に応じた各種説明会を実施した。各ガイダンスは生徒自身が進路について考える機会となり、進路選択に有意義な情報提供が行えた。 ・３年生については、各入試制度の概要や出願条件等の情報を適切に提供できた。特に共通テストの出願方法が今年度から WEB 出願となったことなどの変更点について、丁寧に情報提供を行えた。 ・年内入試への準備として、小論文対策を 1 学年から行うこととした。	・入試制度の多様化により学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜それぞれに対して、早期から情報提供を行うことの必要性を感じる。 ・今後も進路に関する情報共有の一層の強化を図り、各学年で行う進路ガイダンスを適切な時期に実施したい。	個々に応じた丁寧な指導をしていただき、生徒たちの進路実現に尽力していただき、卒業生として大変感謝している。そのような取り組みもあり、高校入試の志願倍率が 1.5 倍弱と聞いている。卒業生として誇らしく感じている。	・生徒が希望する進路の実現に向けた取組を充実させてきたことで、国公立や早慶上智、立教等への進学も増えた。 ・年内入試による合格は増加したが、一般入試のほうは苦戦した生徒も多かった。	・引き続きキャリア教育プログラムの充実に努める。 ・年内入試への支援を継続するとともに、一般入試に向けた支援の充実も図りたい。
4	地域等との協働	地域等への貢献活動や教育力の活用を通して、地域に信頼される学校づくりを推進する。	地域理解を図るとともに、地域貢献が生徒の自己肯定感につながるような教育活動を実施する。	①地域貢献活動について、生徒の意見を取り入れる等、主体的な活動となるよう検討や工夫を行う。 ②防災訓練や地域理解活動を通じて、地域との交流を深め、地域防災について連携強化を図る。	①地域貢献活動について、生徒の主体的な活動となるよう検討や工夫したか。 ②地区の防災訓練参加に向けた取組等、地域連携をすすめることができたか。 ・防災教育において地域理解をすすめることができたか。	①地域貢献活動については自治会の夏祭りなどの運営面で引き続き協力を図ることができた。生徒会や多くの部活動などが協力し、様々な場面で積極的な交流が図れた。 ②今年度も津波シミュレーショントレーニングや DIG 研修を実施、近隣の広域避難場所及び避難経路の確認、また鎌倉市の津波避難ビルや広域避難場所について調べ、実際に場所の確認を行うなど防災意識を高めるとともに地域理解に努めた。また、７月の津波警報発令時にはマニュアルに従って、ゴルフ場や七里ガ浜小学校へ避難した。11 月には自治会で実施された防災訓練へ職員が参加した。	①地域と学校の相互関係を強めていけるよう生徒の地域貢献に関する主体的な取り組みを推進していくとともに、地域の様々な行事や活動に対して、生徒たちの若い力を発揮できる場や環境の整備に努める。 ②地域と協力した防災活動の取り組みについては今年度７月に実際にあった津波避難や自治会の避難訓練に参加した経験から見えた課題に対して、見直し・修正を図りながら、地域防災のかかわり方の検討を推し進めていく。	①今年度も地域の夏祭りには 100 名を超える生徒が参加してくれ、そのような取組に感謝している。 ②11 月に七里ガ浜小学校で実施された４地区連合の防災訓練に先生方に参加いただき感謝している。 ７月の地震による津波警報への対応ではこれまで気が付かなかった課題が見えた。今後、地域や小学校、中学校、高校で連携しながら対応をすすめる必要があると感じている。	①地域のイベント参加については、ボランティア部、吹奏楽部、ダンス部、チアリーディング部、茶道部等多くの部等による参加があった。 ②11 月に七里ガ浜小学校で実施された４地区連合の防災訓練に教職員が参加した。 津波警報への対応について課題が残った。	②津波警報への対応については、本校独自での検討も行うが、地域や小学校、中学校との連携についても検討をすすめていきたい。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心で充実した教育環境の整備に努めるとともに、学校の取り組みの情報発信に努める。 ②教員の働き方改革を推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①社会で必要とされる学校となるよう継続した職員・生徒の意識向上を図り、生徒の学習活動においての安全面の向上、また施設の環境整備・充実に努める。 ②働き方改革の指針改定を踏まえた取組を進める。	①清掃計画を立てるとともに環境整備委員や技能員、PTA と協力・連携して、校内美化やゴミの減量化及び資源化に努める。 事務や各機関と連携し、校内の危険箇所の修繕などを積極的に推し進める。 ②働きやすさと働きがいの両立に向けて、風通しの良い職場づくりや業務分担・内容の見直しを継続する。	①環境整備体制を整えるとともに各機関との意見交換より校内美化に対する意識や取組が向上したか。 ・危険箇所の修繕・及び安全面に配慮して施設整備を推し進められたか ②職員の時間外在校時間が減少したか。 ・ストレスチェックで高ストレス者の割合が 15%未満であったか。	①計画的に大掃除や産業廃棄物処理に取り組み校内美化活動を積極的に行った。 また PTA の協力のもと今年度北棟３F 壁のペンキ塗りを行い、校内整備を推し進めた。 感染症予防などの観点から 12 月～2 月の 3 か月間各教室へ加湿器の導入も行った。また校舎の長寿命化工事における校内修繕・補修も生徒の安全面を第一に考えて実施された。 ②今年度オフィス改善事業が実施され、働きやすい職場環境の整備が行われ、時間外在校時間は前年度の同時期比較で 207.4 時間から 200.5 時間に減じた。高ストレス者の割合については、15%未満を達成し、県全体との比較でもマイナスポイントとなった。検査自体の受検率も 93.2%と大幅にポイントをあげた。	①校内美化に推進に向けて、今年度も各機関と連携のもと定期的通り行うことができた。 長寿命化の修繕工事などについては、要望の多かった箇所を中心に取り組むことができたが、老朽化に伴う修繕・補修箇所が今年度多くみられてきたため、要望を聞きながらできるだけ希望に沿った修繕・補修が行えるように次年度以降の計画をたてていく。 ②ストレスチェックの受検率については大幅に改善された。時間外在校時間についても７ポイントマイナスになり、働き方改革の取り組みに少しずつ成果が見られてきた。高ストレス者ゼロに向けて引き続き働きやすい環境づくりを推し進めるとともに、メンタルヘルスケアの観点にも注視し、継続課題として取り組んでいきたい。	②ストレスチェックでの高ストレス者の割合が 15%未満という目標を達成したということだが、一割以上の方が高いストレスを感じているということでもある。今後も引き続き、高ストレス者ゼロを目指して取り組みをすすめていただきたい。	①体育館改修工事や長寿命化工事、50 周年記念行事等に向けた取組を行うことができた。 オフィス改善事業については、物理的な職場環境だけでなく、職場の雰囲気の改善にもつなげることができた。 ②ストレスチェックについては受検率を改善できた。	②ストレスチェックについては、今後も引き続き、高ストレス者ゼロを目指して取り組みをすすめていきたい。